学校だより　　10月号

一中の桜並木

令和8年10月9日

「教　育　目　標」
考える人　思いやりのある人
助け合う人　成しとげる人

連雀学園三鷹市立第一中学校
校長　宮城　洋之

「音楽」は地球を救う

校長　宮城　洋之

10月19日(月)から合唱コンクールに向けたクラス練習がスタートします。すでに音楽の授業では練習が始まっていて、廊下を歩いていると歌声が聞こえてくるようになりました。

そこで、今月の学校だよりはこのような話題から…

☆　　☆　　☆

シルバーウィークに久しぶりに映画を観て感動しました。タイトルは『プロジェクト・ヘイル・メアリー』。2021年に出版された同名のSF小説を映画化したものです。

※ ここから先は微妙に「ネタバレ」を含みますので、これから映画を観てみよう、小説を読んでみよう、という方は最後の ☆ ☆ ☆ まで飛ばしてください。

この映画は人類と異星人との初めての出会いを描いたもので、「ファースト・コンタクトもの」と呼ばれる SF ジャンルの作品です。ファースト・コンタクトを描いた映画には、例えば『E.T』(1982)や『エイリアン』(1979)などの大ヒット作も含め数多くの作品があるのですが、異星人との「出会い(コンタクト)」の描かれ方にはその映画の時代背景が反映されているのだ、という論考を読んだことがあります。アメリカと旧ソ連を中心とした東西各国のにらみ合いが続いた東西冷戦の時代には「侵略者」との出会い、1980 年代以降の冷戦終結の時代には「友情と共感」、そして、グローバル化や多様性の尊重が進んだ現代は「異質なものとの共存・共生」が描かれている――というのですが、なるほどという気がします。

さて、映画『プロジェクト・ヘイル・メアリー』では、滅亡の危機に瀕した地球の運命を託された男が、同じく母星の滅亡を回避するためにやってきた異星人と宇宙の果てで出会い、協力し合いながらそれぞれの故郷を救うミッションに挑みます。生命体としての成り立ちが全く異なり、相手の世界の大気を吸うだけで命がない…そんな二人のコミュニケーションの方法が「音楽」なのです。異星人の言語が和音や音階、トーンであることに気づいた男は、異星人の発する音をコンピュータで分析しながら翻訳ソフトを自作していきます。

異星人との音楽によるファースト・コンタクトを描いた映画には他にもスティーブン・スピルバーグ監督の『未知との遭遇』(1977)などがありますが、こうした SF 映画の世界に限らず、「音楽 ＝ コミュニケーション」というのは納得できるのではないでしょうか。

☆　　☆　　☆

日本とアメリカを拠点に活躍している若手指揮者・原田慶太楼さんがインタビューの中でこのように語っています。

> **Q2.原田さんにとって「音」や「音楽」とは？**
> 「世界の共通言語」ではないでしょうか。地球上にはいろいろな言語や文化がありますが、すべての人々が喜びや悲しみ、ワクワクするような気持ちや勇気などを表現したり、共有したりして、心をひとつにまとめることができるのが音楽だと思うんです。
> (YAMAHA MUSIC CONNECT Web 音遊人　https://member.jp.yamaha.com/topics/myujin/2024/wm-77126)

音楽には人と人をつなぐ力があり、人の心を動かす力があります。一中生の歌声が聴く人に感動を与えたり、元気付けたりする……今年も、そんな合唱コンクールになることを期待しています。

令和 8 年度合唱コンクールは 11 月 2 日(月)、府中の森芸術劇場で開催します。